

PICK UP MOVIE



©2022 Boo Productions and Lava Films All right reserved.

林檎とポラロイド

哀しい記憶だけ 失うことはできませんか？

記憶喪失を引き起こす奇病が蔓延する世界——。
男は治療のために、様々なミッションをこなし、
新たな思い出を作っていく…。

[2020年/ギリシャ=ポーランド=スロベニア/90分]

出演：アリス・セルヴェタリス、ソフィア・ゲオルゴヴァシリ、アナ・カレジドゥ、アルギリス・バキルジス 監督・脚本：クリストス・ニク
エグゼクティブ・プロデューサー：ケイト・ブランシェット



ギリシャの新鋭クリストス・ニクが長編初メガホンを取り、記憶喪失を引き起こす奇病が蔓延する世界を舞台に描いたドラマ。ある日突然記憶を失った男は、治療のための回復プログラム「新しい自分」に参加する。彼は毎日送られてくるカセットテープに吹き込まれた内容をもとに、自転車に乗る、仮装パーティで友だちをつくる、ホラー映画を観るなど様々なミッションをこなしていく。

そんな中、男は同じく回復プログラムに参加する女と出会い、親しくなっていく。男が新しい日常に慣れてきた頃、彼はそれまで忘れていた、以前住んでいた番地をふと口にする。新しい思い出を作るためのミッションによって、男の過去が徐々にひも解かれていくが……。ケイト・ブランシェットが絶賛し、製作総指揮に名を連ねた。

[上映日程] 5/21~6/3 (休映: 5/23, 30)

あなたは自分の人生を生きていますか

突然記憶を喪失する人が急増している。そんな感染症パンデミックを暗示するかの状況下でこの物語は始まる。主人公の男も、瀟洒な住まいを出て数時間後、バスの終点で運転手に起こされた時には、名前も何もかも忘れてしまっていた。けれど私は不思議なほど、この男の心情に違和感なく寄り添えた。主演俳優はダンサーでもあるそうで、感情だけでなく場の雰囲気まで、全身でさりげなく表現している。

記憶を失って病院に収容されても親族が捜しに来ない身元不明者は、“新しい自分”を構築するプログラムにとりかかる。ゼロから人生を始めて社会復帰を目指すのだ。このきわめてシンプルな発想と、驚くほどアナログな手法が、物語の底流にユーモラスな味わいを漂わせている。プログラム参加者は住まいと生活費を与えられ、カセットテープで送られてくる指令を実行し、その証拠写真をポラロイドカメラで撮る。ノスタルジーを感じさせるツールを目にすると、私たちが日ごろ記憶の蓄積などを大幅にPCやスマホに頼ってしまっていることに、あらためて気づかされる。

男は律儀にプログラムをこなしていく。指令はごく平凡で、自転車に乗る、ホラー映画を見る、女性と付き合う、というようなものだ。しかしこんな記憶を積み重ねるぐらいで、新たな人生を歩み出せるものだろうか。記憶とはもっと複雑でしかもアイデンティティ形成の重要な部分を占めている、と私は思うのだが。案の定しだいに彼の心はきしみ出す。その彼がふと音楽に引き込まれ、真情を発露するかのように踊り出すシーンは感動的だ。彼はきっと自分が自然に活気づく何かを見つけたのだ。

身になじんだ衣服をまとい、見慣れた風景を眺め、好きな林檎を食べる。無言のうちに彼の深い安らぎが伝わってくる。いったい人生にとって大切なものとは何だろう。そんなことを考えさせられる美しい作品だ。

tamura shizue

田村志津枝

ノンフィクション作家。一方で大学時代から自主上映や映画制作などに関わってきた。1977年にファスビンダーやヴェンダースなどのニュー・ジャーマン・シネマを日本に初めて輸入、上映。1983年からホウシャオシエンやエドワード・ヤンなどの台湾ニューシネマ作品を日本に紹介し、その後の普及への道を開いた。